

# 「地方創生整備推進交付金（港整備交付金）」を活用した地域再生計画 （長崎県南島原市、雲仙市の区域の一部）

## 「海に浮かぶ火の山の大地」の観光・経済を支える港づくり計画

作成主体	長崎県
区域	長崎県南島原市、雲仙市の区域の一部（口ノ津港、須川港、堂崎港、多比良港、加津佐漁港）
計画期間	R3～R7年度



### ◆背景

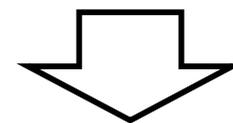
- 古くから温泉地として観光客が訪れた島原半島  
近年は、世界遺産（原城跡）やイルカウォッチング等で観光客の増加が期待される
- 観光客の需要が見込まれる今日、安定的な水産物供給が可能となるように港湾施設の整備が必要

### ◆目標

口ノ津港、須川港、堂崎港、加津佐漁港において、水産物の準備、陸揚等における高齢者の作業軽労化や効率化並びに就労環境の改善、安全性の向上を図る施設を総合的に整備する。  
多比良港においては、非効率な貨物作業の改善を図るための施設を総合的に整備する。

### 【数値目標】

- ・南島原市の観光客数 1,534千人/年（R2）→ 2,100千人（R7）
- ・南島原市の漁獲量 1,800 t/年（R2）→ 1,800 m<sup>3</sup>（R7）



### ◆取組

- 港湾施設及び漁港施設の整備
  - 港湾施設 外郭施設、係留施設、臨港交通施設、水域施設
  - 漁港施設 係留施設

### 【地方創生整備推進交付金（港整備交付金）（内閣府）】

総事業費 2,545,000千円（うち交付金 958,800千円）



**早崎瀬戸あらかぶ**  
島原半島と天草の海峡は早崎瀬戸と呼ばれ、全国的にも潮流が早い所でお有名です。この早崎瀬戸で獲れる「カサゴ」は長崎県ブランド魚「早崎瀬戸あらかぶ」として認定されており、赤味をおび、身も良く締まり、淡泊な味は最高と評価されている。※長崎県では「カサゴ」の別称を「アラカブ」と呼んでいる。

**イルカウォッチング**  
早崎瀬戸海峡には約300頭の野生イルカが生息しており、手が触れそうな近い間近に見ることができるイルカウォッチングが人気。